



熱中症対策・学校図書館と子どもの読書活動・福祉支援について

ながしま ようこ
長嶋陽子 (公明党)

高齢者への対応について

問 今年は熱中症の危険性が極めて高い気象状況だったが、本市の緊急搬送状況は。

答 (保健福祉部長) 令和4年度が50件、5年度は4月から9月13日までが74件で、そのうち65歳以上の高齢者は42件でした。

問 家庭内での、熱中症予防にはエアコンは必須である。リスクの高い高齢者への経済的な負担軽減を図るため、エアコンの設置費用や電気代を助成することについては。

答 (同部長) エアコンの設置助成は、いくつか条件がありますが、エアコン設置の費用の一部も補助対象とした、本市住宅リフォーム補助金の追加募集を9月29日まで行っています。

ヤングケアラー支援について

問 実態調査の結果は。

答 (保健福祉部長) 令和4年7月に、市立小学校5年生から中学校3年生までを対象に、タブレット端末を利用して無記名で実施しました。結果は、約4.2%が「世話をしている人がいる」と回答し、世話をしている対象は、「弟、妹」が最も多い結果となりました。

問 相談窓口の体制は。

答 (同部長) ヤングケアラーの相談に特化した相談窓口はありませんが、子ども課内に設置している家庭児童相談室において、子どもと子どもを育てる親の、幅広い世代の相談を受け付けています。

問 支援事業については。

答 (同部長) 本市では、ヤングケアラーを直接的にサポートする事業は行っていませんが、今後、必要な人に支援が届くよう、県内外で行っている事業なども参考にしながら進めていきます。

その他、学校現場での対策、クーリングシエルター、学校図書館の充実、子どもの読書の推進について質問しました。



猿被害の現状と対策・熊の目撃情報と対策・廃校利活用の推進について

かない とみお
金井登美雄 (新風新政会)

猿被害の常習化、現状と対策について

問 被害の現状については。

答 (みりよく創出部長) 生息数は、合計約230頭で6つの群れに分かれ、家庭菜園被害や住民への威嚇、器物損壊、住居侵入等の被害増大の懸念があります。

問 対策と成果については。

答 (同部長) 地域の団体が、猿を追い払うための経費として、1団体当たり年間12万円以内の補助金を交付し、10団体に対し84万円の補助金を交付しています。野生猿の群れの年間増加率は約15%で、捕獲頭数は、約1割で被害は年々増加していると考えられます。

問 今後の対策と課題については。

答 (同部長) 緊急課題である「捕る」対策として、群れが分裂しないよう配慮し、被害防止目的での捕獲を強化していきます。

廃校後の利活用の進め方や推進について

問 教育施設以外で利活用した際の支障については。

答 (教育部長) 教育財産から行政財産や普通財産へ移行する必要があり、補助金の返還が考えられます。

問 旧九十九小学校を教育施設以外の用途で利活用した場合の補助金等の返還額は。

答 (同部長) 今年度中に処分した場合の返還額は、おおよそ2,300万円となります。

問 年間の廃校の維持管理費は。

答 (同部長) 旧坂本小学校、松井田西中学校、臼井小学校、九十九小学校、松井田南中学校の維持管理費は、総額で約1,000万円となります。

問 廃校施設の利活用の進め方については。

答 (企画政策部長) 利活用につきましては、地域住民の意向を聞きつつインターネットなどを通じて、積極的な情報発信を行っていきます。

その他、熊の目撃情報と出没エリア対策について質問しました。